

中学生の「税についての作文」

福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

税の支え

大木町立大木中学校

三年 山下 結子

「税金」というと、私は今までなんとなくマイナスなイメージを持っていた。しかし、ある経験を通して税金に対するイメージはマイナスからプラスへと変わった。

二〇一九年十二月、新型コロナウイルス世界初確認。二〇二〇年一月十五日、国内初確認。二月二十七日、感染拡大防止を目的とした臨時休校の要請。四月七日、緊急事態宣言の発令。突如現れた未知のウイルスは世界中を混乱させた。そして、人々の生活を一変させた。

休校になった当時の私は新型コロナウイルスの怖さを知らず、「暫く経てば収束するだろう」とあまり深く考えていなかった。寧ろ喜んでいる自分さえいた。学校に行かず、家で自分の時間を自由に使えるからだ。そんな私だったが、二ユーで毎日増え続ける感染者の状況知らされる度、危機感を持つようになった。この時初めて新型コロナウイルスを「怖い」と思った。そして、重症者の治療の状況を知った。

治療には膨大な費用がかかるというのは私でも容易に想像できた。症状が重く、更に治療費も払わなければならない、重症者にとってこれはかなりの負担なのではないか、と思っ

た。しかし、二ユースでそういった情報は知らされなかった。私は疑問に思い、調べてみることにした。私は驚いた。新型コロナウイルスは「指定感染症」であることから、検査や治療の費用は公費で賄われるため、自己負担はないのだ。予防接種のワクチンも同様だと知った。つまり、私たち国民が納めている消費税や所得税といった様々な「税金」が治療に充てられているのだ。

私は初めてこのような税金の使われ方を知った。道路の整備や授業料、年金等に使われていることは知っていたが、国民の健康、安全のために使われていることは知らなかった。私は今まで税金に対して払ってばかりではないか、と否定的だったが、このように健康を守るために使われているのなら税金は納めるべきだと思った。

私が住んでいる大木町では病院にかかった際、中学生以下は全額町が負担する、という制度がとられている。これは自治体によって異なるため、私は大木町に感謝している。それと同時に、この制度に甘えて自分の健康を疎かにしてはいけないと思った。

私たちは医療に限らず様々な形で税金によって支援を受け、守られている。目には見えないが、誰かが納めた税金が誰かを支えている。つまり、私の納めた税金が世の中の誰かの役に立っているということだ。人の役に立てている喜びを想像しながら、これからも納めていきたい。私たちが授かった「税」という恩恵を返すのが、私たち国民の使命なのではないだろうか。